

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第43週 (10/23-10/29) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		43週	42週	41週	40週
小児科		18	18	18	17
眼科		5	5	5	4
インフルエンザ*		28	28	28	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県 10/16-10/22 42週	
		注意報	10/23-10/29	10/16-10/22	10/9-10/15		
			43週	42週	41週		40週
小児科	RSウイルス感染症		5 0.28	3 0.17	12 0.67	11 0.65	116 0.86
	咽頭結膜熱	○	7 0.39	2 0.11	3 0.17	2 0.12	51 0.38
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		25 1.39	21 1.17	29 1.61	23 1.35	306 2.27
	感染性胃腸炎		68 3.78	62 3.44	54 3.00	51 3.00	381 2.82
	水痘		3 0.17	4 0.22	6 0.33	2 0.12	28 0.21
	手足口病	○★	55 3.06	38 2.11	39 2.17	50 2.94	343 2.54
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	突発性発しん		11 0.61	9 0.50	9 0.50	7 0.41	48 0.36
	百日咳		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ		7 0.39	5 0.28	3 0.17	9 0.53	62 0.46
	流行性耳下腺炎		7 0.39	0 0.00	5 0.28	0 0.00	15 0.11
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		7 0.25	5 0.18	1 0.04	3 0.11	80 0.37
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		5 1.00	5 1.00	3 0.60	3 0.75	23 0.66
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	60歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出
結核	女性	60歳代	病原体等の検出等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	30歳代	細菌の検出及び薬剤耐性の確認
ウイルス性肝炎	男性	50歳代	血清IgMHBc抗体の検出				

・第43週は、結核2件(178)、ウイルス性肝炎1件(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(15)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(23)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第43週のコメント

<咽頭結膜熱>前週より増加し、0.39となった。過去10年の同時期と比べると最多。

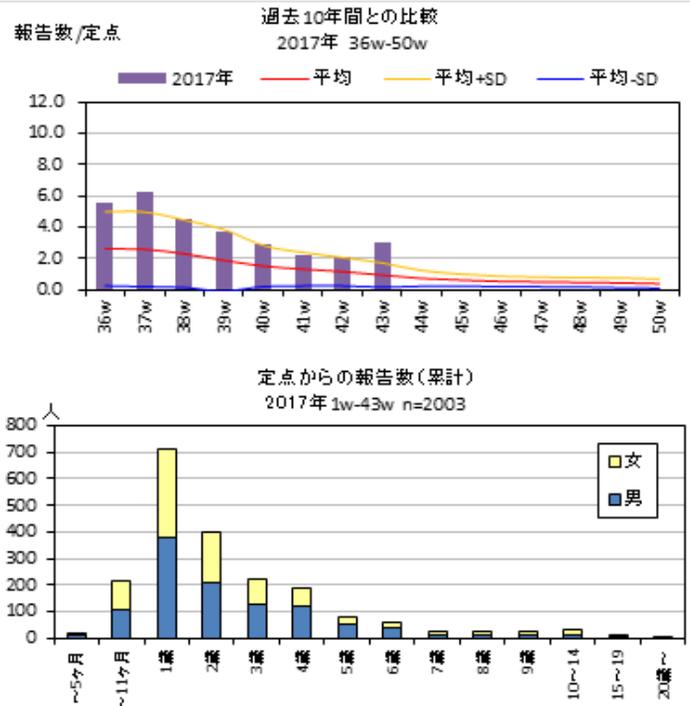
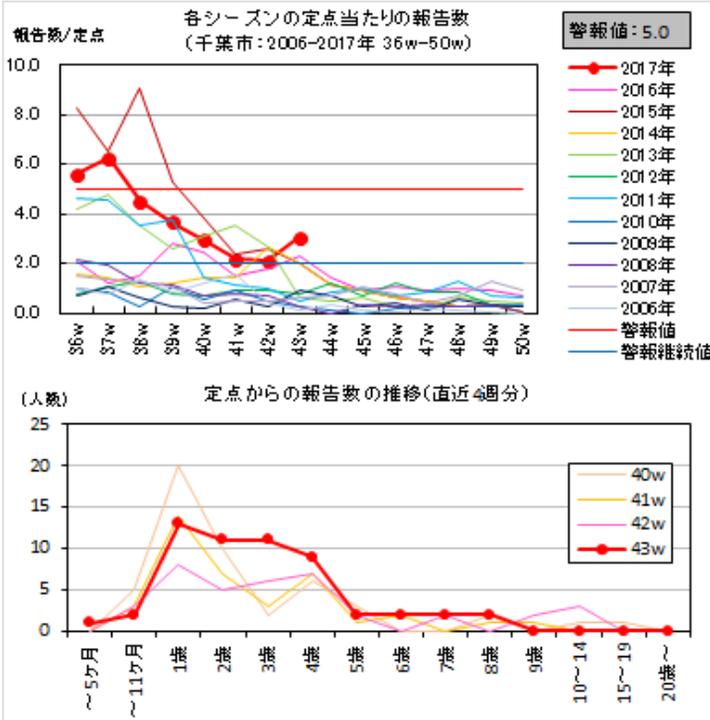
<手足口病>前週より増加に転じ3.06となった。流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多。

<インフルエンザ>前週より増加し0.25となった。流行開始の目安とされる1.00より少ないが、過去10年の同時期と比べるとやや多め。(2009年のパンデミックを除く)

■ トピック ■

＜手足口病＞

全国レベルの第42週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では佐賀県、福井県、茨城県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2017年第43週は前週より増加に転じ3.06となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。流行発生警報終息基準値(2.0/定点)は上回ったままとなっています。区別の発生状況は、若葉区(10.05/定点)で流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回り最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。他に稲毛区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第43週までの累積報告数(n=2003)によると、性別では男性が54.6%(1094名)、女性が45.4%(909名)で、年齢階級別では1歳(35.6%:713名)、2歳(19.8%:397名)、3歳(11.1%:223名)の順に多くなっています。



＜咽頭結膜熱＞

全国レベルは第39週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第42週も同様となっています。都道府県別では北海道、山形県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の2017年第43週は前週より増加し30.39となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、若葉区(2.0/定点)で最多で、同区の4歳で多く発生報告がありました。2017年第1週から第43週までの累積報告数(n=219)によると、性別では男性が61.2%(134名)、女性が38.8%(85名)で、年齢階級別では1歳(25.1%:55名)、3歳(15.5%:34名)、5歳(13.7%:30名)の順に多くなっています。

